

# 歴史を繙く



わたしは歴史に疎い。高校時代に世界史と日本史を熱心に勉強しなかったせいであるが、世界がどういいう歴史を辿り現在に至るのか、日本がどういいう歴史を辿り現在に至るのか——そういう歴史的な視点をなかなか持てない。もつとも、世界史や日本史を熱心に勉強しなかったわたしにも言い分はあった。それは「歴史なんか知らなくても人間は生きていけるんだ」というものだった。我ながら物凄い開き直りだが、確かに歴史など知らなくても人間は生きていけると思う。しかし、歴史を知ることが人生を豊かにすると思う。

例えば、一九四一年十二月八日、なぜ日本は対米戦争に踏み切ったか？ そんなことを知らなくても生きていくことはできる。しかし、それは日本人として知らなければならぬことのはずだ。なぜなら、わたしは日本人で、そういう歴史の上に現在のわたしと日本はあるからである。

そんなことを考えたのは、この間、実家に帰った時に父からわたしの先祖に関する情報を得たからである。わたしの曾祖父(祖父の父親)は「彰義隊」に属した武士で、二十七才の若さで上野戦争で亡くなったらしい。「彰義隊」が今で言う「SP」みたいなものだとするなら、なかなか格好いい仕事をしていたのだと思う。しかも、二十七才とはずいぶん早死にである。そんなことも知らずにわたしは今日まで生きてきたのだ。少なくとも、父からその話を聞かなければ、わたしは一生、「彰義隊」に興味を持たなかつただろう。ただ現在を生きるより、過去を知って生きる現在の方が味わい深いように思う。そして、歴史は繙(ひもと)かれて初めて初めて歴史になるのだなあと再認識する。

高橋いさを

Column -コラム-

〈劇団シヨーマ主宰 劇作・演出家〉